

ニューマン理論に基づく実践を広めていくために
部署の特徴をふまえた仲間創り
北里大学病院： 贄田里奈、神谷芳絵、古平恵美子

私たちが勤務している外来部門では、患者さんの出入りが多く、関わりの時間が限られています。日々の業務に追われがちで、自身の看護を振り返る場もなかなか作ることができていないのが現状です。私たちはこのような環境の中でこそ、ニューマン理論を取り入れ、日々の看護をより豊かなものにしていきたいと思っています。

ニューマン理論に基づく看護実践を広めていくために、集学的癌診療センターと外科総合外来の2か所で、学習会と対話の時間を作りたいと考えています。しかし、繁忙度が高い日々の中、どのように時間を確保していけばいいか、また、スタッフがニューマン理論に興味を持ち前向きに参加してもらうためにはどのようなアプローチ方法がいいのかを、現在まだ模索中ですが、1月に、第1回の学習会+対話の時間を持ちましたので、その努力や工夫をお知らせしたいと思います。